

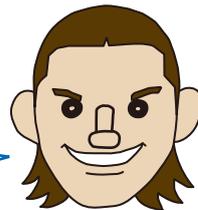


※ 実際には作業中にオペレーターがいなくなることはありません。

フォークリフトによる事故が多いことから、6月25日に東大阪事業所に於いてフォーク講習会を行いました。前回のフォークリフト危険予知トレーニングは、運転者だけでなくフォークの周りにいる人たちに向けての講習だったのですが、今回は実際に現場や倉庫で運転する人たちに対して、基本を見直すために講習を行いました。今回も TOYOTA L&F の松井部長に講師としてきていただきました。参加者は合計 23 人 (日本ステージ 9 人・大道具 8 人・鷹 2 人・フォークオペレーター 4 人) でした。

〇〇 講習に参加していた安全衛生向上委員会の木原からの感想です。 〇〇

午前中は事故事例を交えながらの講習。午後は実技を交えて、フォークの基本的な操作の講習。普段当たり前のように乗っているフォークリフトですが、安全に運行するにあたって、色々勉強になりました。トヨタフォークの爪を自動的に水平に戻す機能は目からウロコでした。



～～午前中に行った座学～～



～～フォークについて～～



～～フォークの実技～～

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 新規部材紹介 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

大規模化そして複雑化するリギングの要求に対応できるように、大阪の分電盤に新型の 24ch と 12ch が仲間に加わりました。

右が 12ch 左が 24ch

最大の特徴は、リンクケーブルで 24ch と 12ch のコントローラーを繋げて 36ch として使用可能な事です。

1人で最大 36 台の CM モーターを制御可能になったおかげで、操作ボタンを「せーの」の掛け声で、2人で同時に押す必要がなくなり、より安全なモーター操作が可能になりました。

とはいえ、36台のモーターの挙動を少数で監視するのは困難なので、昇降時は十分な人員配置による挙動チェックが必須でしょう。

連結された状態



24ch



12ch

コントローラーには緊急時の非常停止ボタンも装備。まさかの時も安心です。



36ch

デジタル制御の要のインバータが故障しても、バイパス端子でインバータを通過してアナログ制御でも運用することができます。故障に対する安全対策ができていますので、現場にも安心感をもたらすことができます。

アナログ制御可能にしている差し込み口



動力をインバータで電子的に制御する事でコントローラーの延長ケーブルを今までの太く重い物から、軽く細い物にする事が出来ました。なので、トラスのアップダウン転換でコントローラをトラス目視可能なエリアまで持ち出すことも簡単に出来るようになりました。

内部のインバーター

